

フッ化物洗口の導入にあたって…

1 フッ化物洗口実施までのステップ

【 提 案 】

- **提案のきっかけ**
「自分の市町村、園（保育所、幼稚園）、学校（小・中学校）ではむし歯のある子が多い」「効果のあがる方法で子どもたちをむし歯から守りたい」
- **相談及び企画提案**
集団で実施するむし歯予防方法である「フッ化物洗口」の導入について、学校歯科医（嘱託歯科医）、行政（保健福祉担当課、教育委員会等）、施設責任者（園長、学校長）と一緒に企画案を練り、合意形成を行います。この際、市町村事業として実施する方向性が合意できると、その後の関係者の理解が得やすくなります。必要に応じて、地元の歯科医師会や保健所にも協力を求めます。

【 関係者の理解と合意 】

- **理解**
むし歯の状況や歯・口腔の健康の重要性、むし歯の予防としてのフッ化物洗口のメリット等について、施設職員や教員を対象とした勉強会などを開催して、共通理解を図ります。
- **合意**
共通理解ができたところで、「フッ化物洗口」の実施に向けて園・学校が、学校歯科医と協力して方向性を確認します。

《 ポイント 》

必要に応じて、すでに実施している園・学校の視察をするとよいでしょう。
フッ化物洗口の実際を目でみることで、具体的な運営方法がイメージでき、安全に実施できる実感や自信が高まります。

【 保護者の理解と合意 】

《 ポイント 》

保護者の理解と実施希望が最も大切です。
説明会だけでなく、啓発資料の配布や意向調査等を通じて理解を図り、実施希望を確認します。

- **理解**
保護者を対象に勉強会や説明会を開催し、歯や口腔の健康の大切さ、フッ化物洗口の効果と安全性及び実施方法などについて説明します。質疑応答の時間も十分に確保し、園・学校での実施について保護者の理解を求めます。この際の講師は、学校歯科医（嘱託歯科医）が望ましいですが、歯科医師会や保健所へ依頼することもできます。
- **合意**
保護者に対して園・学校で実施するフッ化物洗口への参加希望調査を行い、子どもをフッ化物洗口に参加させるかどうかを文書等で確認します。
参加を希望しない子どもには、洗口をする時間帯にフッ化物水溶液ではなく、真水（水道水）を使ってうがいをさせるなどの配慮をすることを説明します。

【 フッ化物洗口の準備など 】

- フッ化物洗口を本格的に実施する前に、運営が円滑に行えるように確認します。
 - フッ化物洗口に係る予算の確保を行います。
 - 学校歯科医と相談し、フッ化物洗口実施の指示を受け、管理方法や洗口手順等を十分確認します。
 - 子どもが慣れるように、水道水で「ブクブクうがい」の練習を行います。

むし歯予防のためのフッ化物洗口の実施

2 洗口頻度と使用薬剤の決定

フッ化物洗口には標準的な方法として「週1回法」と「週5回法」があります。この2つの方法のむし歯予防効果に大きな差はありませんので、対象者や施設での利便性に合わせて選んでください。保育所・幼稚園では週5回法が、小・中学校では週1回法が標準的です。

また、洗口液に使用する薬剤は、市販製剤（ミラノール[®]またはオラブリス[®]）を用いる方法とフッ化ナトリウム試薬を用いる方法があります。

なお、0.1%のフッ化ナトリウム（フッ化物濃度 450ppm）水溶液を用いて週2～3回洗口する方法もあります。

フッ化物洗口の実施頻度とフッ化物濃度

	週1回法		週2～3回法		週5回法	
フッ化ナトリウム濃度	0.2%		0.1%		0.055%	0.05%
フッ化物濃度	900ppm		450ppm		250ppm	225ppm
使用洗口剤	市販製剤 〔ミラノール [®] オラブリス [®] 〕	フッ化ナトリウム 試薬	市販製剤 〔ミラノール [®] オラブリス [®] 〕	フッ化ナトリウム 試薬	市販製剤 〔ミラノール [®] オラブリス [®] 〕	フッ化ナトリウム 試薬
主な対象	小・中学校		保育所・幼稚園			

市販製剤

フッ化ナトリウム顆粒のものとして、ミラノール[®]とオラブリス[®]があります。

薬局等から必要量を購入します。

※ 年度当初に一年分まとめて購入する場合があります。

フッ化ナトリウム試薬





学校歯科医が直接計量するか、歯科医師の指示により薬剤師が計量して使用します。薬剤師に計量・分包を依頼する場合は、学校歯科医（嘱託歯科医）から薬剤師への指示書〔様式例3、4参照〕も発行してもらいます。

※ 通常数か月から半年分程度を一度に計量します。



3 器具等の準備

フッ化物洗口を実施する場合、以下の器具等が必要になります。

必要物品	必要個数	備考
溶解用タンク 	施設に 1 個	
ディスペンサー付ボトル 	学級に 1 個	
フッ化物薬剤（ミラノール®、オラプリス®、フッ化ナトリウム試薬）	実施人数によって異なります。	
薬剤保管ケース 	一度に計量する数	ミラノール®500g またはフッ化ナトリウム試薬を使用する場合に必要
コップ	1 人に 1 個	
時計（砂時計、タイマー、または洗口時間にあった音楽 CD 等）	学級に 1 個	
水切りカゴ	学級に 1 個	
薬剤保管庫（鍵がかかるところ）	施設に 1 個	
ポリバケツ	学級に 1 個	吐き出した洗口液を捨てる ときに使用（手洗い場で吐き 出すときは不要）
ゴミ袋	学級に 1 枚	紙コップ使用の場合に必要
ティッシュペーパー	1 人に 1 枚	紙コップに吐き出した液を 吸い取るときに使用

※ 市販薬剤を使用する場合、溶解ボトルと計量カップがセットになった専用容器がありますので、専用容器のみの使用でも構いません。



《参考 フッ化物洗口実施に必要な器具の価格》

（税抜価格：平成 31 年（2019 年）2 月末現在）

必要物品	品 目	販売単位	参考価格
溶解用ボトル	ミラノール®専用容器 200ml	10 本	2,000 円
	オラプリス®専用容器 300ml	10 本	2,000 円
ディスペンサー付ボトル	ミラノール®集団洗口専用溶解瓶 700ml	1 本	500 円
	オラプリス®集団洗口専用溶解瓶 1,200ml	1 本	580 円
フッ化物薬剤	ミラノール®1g	90 包	5,500 円
		180 包	10,000 円
	ミラノール®1.8g	90 包	6,700 円
		180 包	12,200 円
		450 包	27,500 円
	ミラノール®7.2g	200 包	23,500 円
	ミラノール®500g	1 本	5,950 円
	オラプリス®1.5g	60 包	3,300 円
120 包		5,810 円	
オラプリス®6g	60 包	6,120 円	

4 実施希望調査

学校・施設において集団フッ化物洗口を導入することが決定されたら、開始前に児童等の保護者に対してフッ化物洗口への参加を希望するか否かの調査を申込書等〔様式例1参照〕の文書により行います。子どもの参加を希望しない保護者がいる場合、その子どもには洗口の時間帯に真水（水道水）で洗口させるなどの対応をします。

5 指示書の発行

フッ化物洗口を新たに導入する場合及びすでに実施している学校・施設においても、毎年度当初に学校歯科医（嘱託歯科医）から学校長（保育所長・幼稚園長）宛てに「フッ化物洗口液の濃度」「必要量」「実施頻度（回数）」等について記した指示書〔様式例2参照〕を発行してもらいます。

また、洗口剤としてフッ化ナトリウム試薬を使用し、薬剤師に計量・分包を依頼する場合は、学校歯科医から薬剤師への指示書〔様式例3参照〕も発行してもらいます。

6 うがいの練習

洗口を始める前に、あらかじめ1～2週間は真水（水道水）を用いてブクブクうがいの練習を行います。フッ化物洗口は、参加する子どもたちが飲み込まずに吐き出せるようになってから開始します。

洗口が上手にできずに、口に含んだ水を飲み込んでしまうような子どもは、上手にできるようになるまで真水（水道水）で気長に練習を続けます。

7 フッ化物洗口の流れ

